

## 第2回委員会の議論のまとめ

令和2年4月30日

新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会

本日（4月30日）、「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」（本資料中では委員会と略）（委員長：松本哲哉 国際医療福祉大学医学部教授、日本環境感染学会副理事長）の第2回委員会を開催し、インフルエンザウイルスを用いた代替消毒候補物資の有効性評価にかかる検証試験の結果、及び新型コロナウイルスを用いた有効性評価にかかる検証試験の計画について検討を行い、下記の事項を確認した。

なお、今回（第2回委員会）検討を行った検証試験の結果及びその評価は、委員会としての中間的な整理である。

### <インフルエンザウイルスを用いた代替消毒候補物資の有効性評価にかかる検証試験結果> (検証試験における対象物資)

○ 新型コロナウイルスの代替として使用可能なインフルエンザウイルスを用いた検証試験を、前回委員会で選定した界面活性剤8種、次亜塩素酸水(電気分解法で生成したもの)4種、第4級アンモニウム塩1種について、試験プロトコルに沿って検証試験を実施した。

#### (検証試験の結果)

○ 4機関での検証試験の結果は以下のとおりであった。(濃度0.1%、反応時間5分での結果。桁数は感染価対数減少値)

##### > 界面活性剤

4桁(99.99%)以上：直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、アルキルグリコシド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アルキルアミンオキシド

3桁(99.9%)以上：脂肪酸カリウム

2桁(99%)以上：脂肪酸アルカノールアミド、塩化ベンザルコニウム

感染価の減少を認めず：アルキルベタイン

> 次亜塩素酸水(電気分解法で生成したもの)(4種)：いずれも4桁(99.99%)以上

> 4級アンモニウム塩(塩化ベンザルコニウム)：2桁(99%)以上

○実施した複数の試験機関の結果は相関しており、試験は成立したと判断できる。

○インフルエンザウイルスに対する検証試験により、下記の物資は新型コロナウイルスに対してウイルス除去効果を有する可能性が一定程度あると考えられることから、これら物資についてまずは優先的に新型コロナウイルスを用いた検証試験を進めることとする。